

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年9月5日
タイトル	福山の宝「スイゲンゼニタナゴ」保全に向けて
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年8月21日（月）「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会総会」が開催されました。スイゲンゼニタナゴは、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動植物種に指定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚で、岡山県と広島県で生息しており広島県では芦田川水系にのみ生息が確認されています。

この小さな魚を守るため「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が発足し、水土里ネット福山が管理する「芦田川用水」に生息していることから協議会の一員として保全活動を行っています。

「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会総会」では、岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授の中田和義氏を会長に有識者や地元の土木常設員、広島県・福山市の関係課、水土里ネット福山等会員と環境省中国四国地方環境事務所野生生物課からオブザーバーが参加されました。



活発な意見が交わされました



水中カメラが捉えたスイゲンゼニタナゴ！

協議会では、平成28年度事業報告・収支決算報告、平成29年度事業計画・収支予算案等について協議されました。今年度の活動報告として水土里ネット福山が平成29年4月に施行した農業用水路（丸川分水工）の浚渫工事について報告されました。

この農業用水路では平成7年度に自然環境との調和に配慮した改修工事を施工し自然護岸や川砂の敷き詰めを行っており、今年度、円滑な利水運用のため改修工事後初めての全面的な浚渫工事を施工しました。浚渫工事施工前には産卵母貝を別の場所へ避難させるなど生態系維持に配慮しました。この農業用水路には協議会の会員の方も度々訪れておられ、浚渫工事により生物多様性の生息環境が蘇ったと喜んでいただきました。



岩は丁寧にブラシで洗浄！



改修当時の川底の砂が甦りました！

協議会ではそれぞれの分野の専門家や地域住民が意見を交わし、立場が違えば意見が異なることもあります。が充分協議して事業が推進されていて、会員全員が「スイゲンゼニタナゴを守る」という目標に向かって一丸となっていると感じました。

また会議の中で「スイゲンゼニタナゴを守ることで皆がよくなるイメージの提案が必要。地域や関係する団体の元気がでる源になればいいと思う。」「活動し続ける“思い”が大切だ。」とお聞きし、水土里ネット福山もスイゲンゼニタナゴを保全することは、その受け皿となる農業用水路において円滑な利水運用を行う中で生物多様性の環境を整えるなど多面的な機能を発揮することができると思いました。

この取り組みは、21世紀土地改良区創造運動の理念に通じるものを改めて感じ、水土里ネット福山は農業用水路の管理者として健全な維持管理や農業用水の安定確保と水辺環境の保全に努め、農業用水路の役割と重要性を発信してまいります。